

現場からみた日韓政治比較

李 成 権

司会 今日は予告した通りに講演会を始めたいと思います。今日の講師は神戸総領事である李さんです。彼は外交官でありながらも政治家であります。先日、皆さんに簡単に紹介したように、彼はかなり日本に詳しい、数少ない韓国の政治家であります。李総領事は、早稲田大学で修士号を取って、その後、日本の衆議院、国会を経験した事もあります。したがって日本と韓国の両方の国会を経験した、かなり珍しい経験を持っている方です。紹介につきましては、ご自分でなさるという予定でしたので、この辺で終えます。それでは、李さん、よろしく願いいたします。

李 みなさん、こんにちは。ただ今紹介いただきました、韓国総領事の李成権と申します。今日このように素晴らしい講演会を開催していただきました金教授、また山本陽一学部長にも感謝を申し上げます。今日、ここにテーマをあげておりますが、現場から見た日韓政治の比較というテーマでみなさんにお話しさせていただきたいと思います。ここにいらっしゃるみな様は、法学または経済を専攻している学部生ですね。だからどんな内容ですか迷いましたが、結果的に私の経験に基づきながら、日本の政治システムについて韓国と比較してどのような違いがあるのか、またどのような同じ点があるのかを説明したいということで、このテーマを取り上げることに致しました。でもその前に私の講義は一部、二部という感覚でやりたいと思います。一部では私個人の経験からみな様に伝えたい事をお話し致します。また、二部では日韓の政治比較を取り上げたいと思います。

先ほど金教授から話がありましたが、私は神戸の総領事です。韓国の外交部の高官と

いうのは、大使館、または総領事か、日本も同じだし世界のどんな政府も外交のためには、ほかの国に直接行って大使館と総領事館を設置して、仕事をやっています。それで韓国は海外に 187 カ所の大使館と総領事館があります。その中で大使館、総領事館を代表する人が高官と呼ばれる、大使と総領事です。韓国の高官の 187 名の中で私が最年少です。だからその意味では、みなさんと私の年齢差がほかの人よりはかなり大きくはないということです。先輩という立場でみなさんに私の個人的な経験を少し紹介した後、本格的に今日のテーマに従ってお話を進めていきたいと思います。

まず、みなさんに一つの質問をしたいのですが、韓国に行ったことのある方、手をあげて下さい。4、5 人くらいですね。今ここにいる学生たちが 150 名以上だと思いますけど、ちょっと驚きました。まだ、韓国の経験がないということで。他に海外に行ったことのある方、旅行の形でもどんな形でも。半分もいないですね。そうしたら、まだ海外に行ったことがないということですか。すみませんが、手をあげて下さい。半分以上ですね。分かりました。

私の個人的な経歴から少し触れたいと思いますが、先ほど金教授からの話がありましたように、私は釜山国立大学で哲学を専攻しました。みなさん、釜山というところを知っていますか。日本に比していうと、東京があつて二番目の都市が大阪ですね。同様に韓国であればソウルがあつて次が釜山です。1988 年に入学しましたが、当時韓国では、独裁政権を倒すため、民主化運動が活発に展開されており、学生たちが先頭に立っていました。そこで、私も学生運動に参加し、95 年に釜山大学の総学生会長を務めました。その後、卒業してからは約 4 年間、韓国の国会議員の秘書官を経験しました。普通、政治に興味のある人たちは、国会議員の秘書になるケースが多いのですが、私のように学生運動をやった人たちも、韓国では国会議員の秘書になるケースも多いです。だから他の人とほぼ同じケースで私も国会議員の秘書官を務めました。

この 4 年の間、私は多様な仕事を行いました。何か自分の力量、経験不足を感じました。その時は、みなさんのように私も海外に行ったことが全くない人間でありました。それで 4 年間仕事をやってみて、このままであれば、自分の能力を伸ばすことができないという限界を感じました。それで私は自ら、誰の推薦もないまま日本に留学に行きました。その時が 33 歳であり、日本の年なら 31 ですね。当時、私の全財産は 500 万円でした。みなさん、500 万円というお金は多いですか。少ない方ですか。まあ、多くはないですね。それをもって日本にきました。最初、私はひらがなとかカタカナを全然知らないまま、普通の日本語学校の初級課程に入りました。というのは、33 の年で子供もいるし、妻もいるし、お父さんとして、パパとして責任をもって家族のために仕事をやらないといけないのに、すべてを捨てて全財産の 500 万円だけをもって日本に留学に来

たのです。当然、親戚や家族、友達などから反対されました。にもかかわらず、このままではいけないという一つの理由だけで来てしまいました。

それで大学院への進学を目指し、結果的には早稲田大学に入学し国際政治を専攻しましたが、学部はここに書いてあるように哲学ですね。試験で合格しないとイケない。でも全然日本語を知らない。だから私は4カ月で体重が16kg減りました。今は昔の体格そのままですけど、16kg減った時には骨だけ残っているような様子でした。そのくらいに体重が減るくらい勉強をし、1日だけで4時間以上寝たことが全くありませんでした。それでみなさんご存知か分からないですけども、日本の能力試験は1級から2級、3級、4級が一番下で3級、2級、1級、このように上がるわけです。大体1級をとるためには2年間の勉強が必要といわれておりますが、私は2000年4月に来て6カ月くらいで1級を取りました。その後、2001年9月の早稲田大学院の国際政治の試験を受けて合格しました。その時に早稲田の方は国政政治と国際経営学、それぞれ定員が100人でした。また、入学する時に奨学金をもらい、大学院の卒業までは問題なく卒業することができました。

また、大学院への進学後は、日本の政治の現場、真ん中に入ってみようかという思いで、日本の国会議員のホームページを調べて自民党1人と民主党1人に対して勝手に自分の履歴書を送って、私はあなたの事務所で仕事をやりたいというような要望を出しました。その結果、自民党の河野太郎さんから連絡が来ました。みなさん、河野太郎という方は知っていますか？ テレビの討論番組とかよく見られると思いますが、30分程度の面接により合格して2年間秘書として務めました。

私自身が歩んできた道についてみなさんに敢えて紹介したのは、挑戦意識の重要性を強調するためです。現在私は外交官をやっておりますが、日本においても外交官、とりわけ大使とか総領事の場合は、一番難しい外交官試験といわれています。韓国も同様なシステムで、試験に合格した人だけが可能な仕事ですね。しかし、そのような試験も受けたことがない私が外交官をやっています。それが可能な理由は、ずっとさかのぼると、結果的に誰の推薦もないまま、私自らの新しい世界に入ってみようという挑戦の意識があったからこそ、可能だったと思います。

そして、またさかのぼりますと、日本の衆議院議員の河野太郎さんの秘書をやった後、韓国に帰って、自らまた選挙に出て当選して国会議員を務めました。当時、韓国の国会議員、300人の中では最年少の国会議員でありました。それが終わってからは、みなさんジェットロを知っていますか。知らないですか。知っている方は手をあげてください。え、意外ですね。ジェットロは日本の貿易振興機関といい、企業の輸出を支援する国の組織です。同様に韓国では、コトラがあります。私はコトラで2年間勤めて、その後は大統領領

室で秘書官を務めました。すると、主に国会議員の仕事から今の外交官の仕事というのは全て公務員です。公務員だとしても、公務員の中で上位 1% 以内の仕事をやっているといえます。

私が言いたいのは、勉強をあまりやったことのない人間なのに、一般に頭が良く勉強のできる人たちがつく公務員の上位 1% に入れたということです。それは、自分が置かれている環境にとどまることではなくて、どこかに出る、または新しい挑戦をすることによって自分の人生が変わってくるということです。もし、私がそのまま国会議員の秘書をずっとやっていたら、今も国会議員の秘書をやっている可能性が高い。なぜなら、私の友達とか先輩たちはまだ秘書をやっているからです。しかし、私の場合、新しい挑戦を恐れなかった結果、少し前の方に前進したと思います。だからみなさんに私がさっきのテーマに入る前に言いたいことは、できるだけ多くの経験をしてみて下さい。そして日本での経験だけではなくて、海外に出て様々な経験と人達と出会う、付き合うことを強調したいです。その結果は、いつかはみなさんの人生に大きな利益をもたらす可能性が高いです。

そこで、どの程度の日本の学生が海外に留学しているかについて紹介してみます。これはすでに知っている方もいるかもしれませんが、一番アメリカに留学している国は中国ですね。見えますか、今どのくらいの数字なのか。2010 年から 2013 年まで 235,000 人くらいですね。二番目がインドで 96,000 人くらい。韓国は 70,000 人くらいです。日本はどのくらいなのか、ここに書いています。19,000 人。ちょっと考えて下さい。中国の人口はどのくらいですか。15 億以上です。インドも 13, 12 億です。人口が多いですから、ある意味では留学生が多いのは当たり前ですが、日本は人口どのくらいですか。1 億 2,700 万人くらいで、その中で 19,000 人。でも韓国は人口どのくらいか知っていますか。韓国の人口は 5 千万人くらいです。日本の人口は韓国の 1.5 倍くらいです。また若者の比率も同じですよ。にもかかわらず、日本の場合には韓国に比べて 1/3 くらいの学生しかアメリカに行っていない。というのは、日本の学生はそれほど国外に出ないことを意味します。これは国レベルの比較ですが、個人の人生にとってもこれはものすごく大きな意味を持っているかもしれません。

次に、年度別に海外留学の推移をみましょう。2000 年から 2003 年までの間がピークに達しましたが、また減ってきています。そして 2012 年にちょっと増加していることがわかります。全体的にみると、1 年間で 6 万人くらい外に出ています、留学する人が少ない傾向です。果たしてこれが国の未来の問題だけではなくて、個人の未来にもいいか悪いかを少し考えてもらいたいです。私の経験からすれば、結局私が日本に留学しに来たこと自体、それが一つのきっかけになって、今私が外交官になることができ



たということです。そのように、みなさんも今のそのままではなく、他の世界に出会うことをたくさんやっていただきたいということを、先輩としてのみなさんに対する頼みです。

さて、今日のテーマに移りたいと思います。これからはみなさんが授業で教えてもらった部分があると思いますが、政治のシステム、文化的な面などから韓国との比較を行ってみることにします。また、講義が終わったら、いくつかの質問をさせていただきますと思います。日韓の政治的な比較は様々な面ができますが、その中で5つくらいを取り上げて比較してみようと思います。まず、韓国の朴槿惠大統領と、日本の安倍内閣総理との比較です。これは大統領制と議院内閣制という二つの制度の違いがありますから、日韓の統治システムがどのように違うのかについても少し説明したいと思います。第二に、ここに数字が書いてありますが、これは立法システムに関わるものです。つまり、両国における国会がどのようなシステムになっているのかを説明したいと思います。第三には、日本と韓国においてみられる政治文化の違いを取り上げてみます。第四に、日本と韓国の政党について、政党間の関係がどのように違うのかを説明したいと思います。最後には選挙制度を比較したいと思います。日本も韓国も同じ選挙制度を持っています。小選挙区制です。知っていますね。一つの選挙区で一人を選ぶ選挙。後は比例区がある。ほぼ同じですから比較する意味がない。にもかかわらず違うところは地方

参政権を持っているかどうかですから、選挙制度の比較を地方参政権からみてみたいと思います。

次のページですが、みなさんに質問したいと思います。政治に興味のある方からして、安倍総理と朴槿恵大統領、お二人の個人のキャリアに関して、自分の考えを述べられる方はいますか。個人の感想でもいいですよ。テレビ番組にもたくさん出るじゃないですか。誰か。自由に、誰でもいいです。朴槿恵大統領であれ、安倍総理であれ、個人の印象とか。

学生 安倍首相は、現在の安倍首相は第二次安倍内閣ですが、第一次内閣の時にできなかった改革、外交政策についてリーダーシップをもって行っていると思います。

李 一期目より二期目になってリーダーシップをもって国を運営しているというイメージがあるということですね。だから同じ人物でも、時期によってちょっと変わっているということを観察していると解釈できます。私は日韓関係から見ると、50年前、1965年に日韓基本条約が結ばれまして国交が正常化しましたが、現在が最悪の日韓関係だと言われています。本当にそうです。その理由が色々ありますが、その一つの理由としては、両国のリーダーが最悪のパートナーだと思います。例えば1998年代に韓国では初めての政権交代がありました。金大中大統領と、日本の場合は小渕恵三総務総理でした。二人の関係で98年代に日韓パートナーシップ宣言ということでお互いに分科会をしたり、経済協力をしたり政治的な宣言をしたり、ものすごく仲が良かったです。一番いいパートナー、最高のパートナーでした。でもまた次、盧武鉉大統領と小泉総理の時代では、対立がありました。しかし、今の朴槿恵大統領と安倍総理に比べると、いい関係でした。だから今までの大統領と総理の関係から見ると、最悪のパターンが朴槿恵大統領と安倍総理です。なぜなのかです。

それはこれを見ていただければ、わかると思いますけど、朴槿恵大統領と安倍総理は二人とも1952年と1954年に生まれて2歳差しかない。いわゆる二人は戦後世代です。1945年に終戦しましたので、だいたい10年くらい、8年くらい過ぎた年です。戦後世代という感覚を持っている人達。その中で、周辺環境、特に人の性格に一番影響の及ぶ家族関係から見ると、わかると思いますけど、朴槿恵大統領のお父さんは誰ですか？みんな知っていると思いますけど、18年間、1963年から政権を握って1979年に暗殺される前の18年間韓国の長期独裁をやった朴正熙元大統領の娘さんが朴槿恵さん、今の大統領です。

そしてその時代の大きな特徴は何ですか。強力なリーダーシップ、その強力なリーダ

ーシップのもとで経済成長をやりました。またアメリカとの韓米、米韓の安保同盟関係になりました。つまり、反共産主義の下で経済協力と安保というのが国の目標です。その影響がそのまま多分、娘さんの朴槿恵大統領にも影響を与えていると考えられます。お父さんが成し遂げた経済成長に関して誇りを持ちながら、安保が大事というのが彼女の心にあるわけです。

安倍総理はいかがですか。安倍総理も戦後世代で、お祖父さんが誰ですか。岸信介さんですよ。岸信介さんは1953年に日本の総理になりました。でもその前はどんな人物だったですか。太平洋戦争の責任を持つA級戦犯であります。本当だったら処刑されるべき人でした。でも冷戦時代ということで北東アジアは自由主義と、また共産主義の対立が激しかったから、アメリカの影響でこの人は助かりました。それでA級戦犯から処刑されなくて、そのまま総理になったわけ。それで彼の政策も経済成長、またアメリカとの安保同盟が一番大事でした。お祖父さんの影響を受けた安倍総理は、朴大統領と同様に、強力なリーダーシップ、経済成長、お祖父さんに対する誇りというのが彼の心にあります。

問題は方向性が違うことです。お父さんが親日派でしたから、朴槿恵さんも親日派ではないかという解釈を日本のマスコミで行っていますが、そうでもないですよ、実は親日も反日でもない、白紙の状態です。でもスタイル、パターンは完全に強力なリーダーシップです。だからこのようにある意味では、戦前の時代のいろいろな問題についての経験がない人たち、戦後世代が総理とまた大統領になってぶつかり合うことによって、結果的に日韓関係が悪くなった一つの原因になるわけです。それを見ると、リーダーの重要性がよくわかると思います。今の安倍総理がよくやっているかどうかかわからないですけど、日本の場合はいろんなリーダー、総理がいましたけど、どんな人物が総理になるかによって日本の未来も変わる。韓国もそうだし、日韓関係も変わるということです。

次は、人物でなくシステムから比較をしてみたいと思います。みなさん、議院内閣制と大統領制の違いについては知っていますね。まず、日本の議院内閣制についてこのように図式で示すと、ここに内閣総理大臣がいますね。ここは国民がいないです。内閣総理大臣は国民から選出されていないからです。国民の下ではない。横に行くと、国会があります。また、日本の場合は両院制ですね。衆議院と参議院。衆議院と参議院は国民から直接選ばれます。だから国民を代表するのは国会ですね。そして国会から間接的に選ばれる、総理になるわけです。これに対して韓国は大統領制ですね。国民がいます。国民は国会議員の選挙で国会議員を選びます。国民を代表するのは国会でありながら、そして大統領も日本の場合は国会から選ばれますけども、韓国は国民から選ばれます。

国民を代表するということ。

この違いがどのような結果を生み出すかといいますと、国民の世論に対してどのように反応するかに現れます。先に戻りますと、内閣総理大臣の場合は、私が国会議員の秘書を2年間やりましたから、その時見た事と今の日本の政治を見るとよくわかります。日本の総理大臣は、国会においてどの政党が多数派になるのかにかなり敏感になります。またその中で、与党の中でどの派閥が党の権力を握るのかに敏感になります。総理大臣自身が一番大きな派閥ではなくても、他の派閥と手を組んで総理になることもできます。だから国民というよりも国会の中で政党、政党の中で派閥に敏感になるのが日本の総理大臣です。例えば最近、集団的自衛権に関して国民の世論は反対が多いですが、賛成が多いですか。反対が多いですね。反対が多いし、憲法学者、ここは法学部ですからみなさんそれぞれの解釈があると思いますけど、一般に法学者の中では反対が多いといわれます。今のままの集団的自衛権の行使は憲法違反という、違憲という意見が多いですね。にもかかわらず怖がらずにできる理由は、安倍総理の個人の性格的な、お祖父さんからの影響ということと関係があるし、システム的にみても与党が崩壊しない限り総理大臣の職を維持することができます。これはシステムの差に関わるもので、韓国ではそのようなことができません。つまり、世論の反対が強いことに対して大統領が貫徹していくことが難しいのです、常に世論を意識せざるをえません。

次のページに移ります。すると、韓国の大統領に関して疑問があるかも知れません。韓国の大統領制とアメリカの大統領制は同じものなのか、また韓国の大統領は支持率を上げるため、反日政策を行うのかです。これは日本のマスコミにおいてよく出るコメンテーターが話しているものです。これらの二つの疑問について、まず韓国とアメリカの大統領制について説明しますと、純粋な大統領制はアメリカです。これに対して韓国の場合は議院内閣制の特徴を持っています。ほとんどの大統領制と同様に、アメリカの場合には大統領の任期が1回だけでなく2回できます。それに対して韓国は1回しかできません。その理由は朴正熙大統領の18年間の軍事独裁と関係があります。その軍事政権を倒したのが1987年の民主化運動でした。民主化運動によって当時の軍事政権が約束したのが直接選挙による大統領の選出です。ただし、任期については1回に限る大統領制を採用したわけです。

そして日本の内閣制と似ているところは、アメリカであれば、国務総理がないわけですが、韓国の場合、議院内閣制のように大統領の下に国務総理がいます。私はいらなないと思いますけどそれがありません。さらに、アメリカであれば、国会議員が行政府の長官を務めることができません。それに対して韓国では国会議員が長官を務めることができます。また国務総理の話もありましたが、国務会議制度、日本の閣僚会議のような

ことも行っています。いろんな意味で大統領制でありながらも、また日本の議院内閣制のような要素を持っているのが、韓国大統領制の特徴であります。

また戻りますけど、韓国の大統領は支持率を上げるために反日政策をやっているのではないかという話がありますが、実はそうではないです。みなさん、現在の日韓関係が悪くなった原因に関して日本のマスコミでは、今の朴槿恵大統領の前の大統領である、李明博大統領が、2012年の8月10日に濁島、日本では竹島といいますが、濁島を訪問したことから求めています。その上、なぜ、李明博さんが濁島を訪問したのかに関して、韓国の国内での汚職事件によって国民の非難がかなり高まって支持率が下がったので、それを上げるために訪問したのではないかという解釈を行っています。すなわち、外交問題を国内政治に利用しているということですが、実際はそうではないと言えます。

私は李明博大統領の時代に秘書官として大統領室で勤めましたから、その意思決定過程の全てを知っています。訪問の直接的な理由は、国内の世論の支持率が下がったのを上げるためではなく、その前の年、2011年京都で民主党政権の野田総理と李明博大統領と行った会談から探ることができます。当時の会談において一番の懸案になったのが慰安婦問題でした。そこで慰安婦問題について解決策を出そうとしましたが、結果的には李明博大統領の立場からすると、野田総理が最後の段階で約束を守らなかったということで怒ったわけです。外交というのは多様な懸案をめぐって交渉を行います、AからABCDというような材料があると、Aを利用してBを妥協するとかいろいろあります。その意味で日韓の間での外交戦の一つのやり方として訪問という手段を選択しただけで、国内の支持率を上げるために訪問したわけではないということは、私が直接見た、また経験したことだと思います。

次のページに移ります。14ページに書いてある比率は何を意味するのか。3対6、または8、15、35、数字が出ておりますが、これは日本、韓国、アメリカの国会議員の秘書の数です。一番前の3が秘書です。1人の国会議員に対して3人の秘書が日本です。1人の国会議員に6人の秘書が韓国です。そしてこの括弧、8というのは2人の非正規のインターンに国から給料が出て採用することができます。それを入れたら8人になるわけです。そして最後の15と35はアメリカの国会議員の秘書の数です。これを見ると、かなり差があることがわかります。日本よりは韓国が2倍、韓国よりはアメリカが2倍。なぜなのか、知っている方、いますか。みなさんの中で国会議員の秘書をやりたい方、もしくは政治の現場に入りたい方、いますか。また誰もいないですか。なぜ、国会議員の秘書の数がこのように違うのか。お金が、つまり国の財源が足りないからでしょうか。ちょっと考えて下さい。時間は20秒。ちょっと想像力を発揮して考えてみて下さい。

それはこのページを見ながら説明できると思いますけど、簡単です。それは大統領制なのか議院内閣制なのかが一つの差、または議員立法ができるのか、行政立法ができるのかの差によるものです。二つの理由によって秘書というスタッフの数が変わるわけです。ここまで説明しましたが、だいたい理解できますか。もっとも特徴があるのがアメリカです。一番下をみて下さい。アメリカ議会は両院制です。上院、下院の二つですね。下院は2年間の任期、上院は4年間です。そして議員の数、秘書、スタッフの数を見て下さい。アメリカの場合、平均15名、上院は平均35名です。日本と韓国の場合は、何人まで雇うことができるかが決まっていますが、アメリカだけは人数の決まりがないです。総枠割当制ということで、全体のお金の枠で国会議員が自由に雇うことができる仕組みです。

この違いが立法活動に影響を及ぼしています。みなさん、議員立法と行政立法という言葉、用語を知っていますね。知らない方はいないと思いますけど、国会というのは法律を改正・制定するところです。またその仕事を行う人たちが国会議員であり、法律を作るのが当然です。そこで、行政府に新しい法案を提出する権利があるかどうかです。アメリカの場合、行政府はその権利を有しておりません。国会議員だけが法案を扱います。これに対して韓国と日本では国会議員が法案を提出してもいいし、行政府が国会の方に直接提出してもいいという。この差が大きいです。だからアメリカはその法案を扱うスタッフの人数が少なかったら、その仕事ができないので、たくさんのスタッフが必要とされており、下院とか上院の秘書の人数が変わるわけです。

一方、韓国と日本では同じく議員立法もできるし、行政立法もできる。にもかかわらず、なぜ、人数が違うのか。私の解釈では、これは大統領制と議院内閣制の差によって違いが生じるといえます。先に統治システムから説明しましたが、議院内閣制では国民をそれほど意識しなくてもよくて国会議員同士の関係が大事です。また仕事の面からすると、行政府が同じ責任を持っています。だから官僚が主に法律を作り、国会議員はそれほどスタッフが必要でない。秘書の役割は法律関係よりも地元の管理とか後援会の管理とかの仕事が多い。それに対して韓国の場合、大統領制ですので国会はいつも行政府に対して監視及び牽制を行わなければなりません。これらの仕事は国会議員自らの実力を持たなければ、できないものですので、日本に比べて多くのスタッフが必要です。だから単純に見えるかもしれないけど、大統領制、議院内閣制の違い、そして行政立法ができるかどうかによってスタッフの数が変わってくるということです。

私の場合は、河野太郎さんのところで2年間仕事をやりましたが、河野太郎さんは本当に政策の仕事を一生涯懸命にやる人です。日本の国会議員480名の衆議院の中で最も真面目に仕事をやっている人です。もちろん、他の国会議員が仕事をやらないというわけ

ではありませんが、スタッフの主な役割は地元の選挙管理や後援会の管理、連絡のやり取りが多いです。一方、韓国のスタッフの役割は主に法律関係に関わっています。

議員立法について韓国と他国を比較してみると、韓国の国会議員1人当たりの年間法案発議は12.98件です。これに対してイギリスが0.06件であり、韓国と大きな差があります。また、アメリカの場合においても行政府が法案を出すことはできないので、1人当たりの国会議員の提出が9.76件で多いです。

もちろん韓国においても様々な問題があります。これだけを見たら、韓国の国会議員は真面目に仕事を行っているようにみえますが、それは表面的なものです。次のこのデータは韓国の18代国会議員、2008年から2012年までの国会のもので、提出された法案の廃棄率が82.2%です。だから10個の法案を出したら、そのうち8は捨てる、ゴミ箱に。二つしか通らないということです。だから結果的にみると、韓国の国会議員の一人あたりの通過した法案を見ると、だいたい3件か4件くらいです。そこで、なぜ、韓国の国会議員は廃棄される可能性が高いにもかかわらず、法案を出すのかという疑問が残ります。これには日本と韓国の政治文化の違いですけど、国会議員に対して監視活動を行う市民団体の影響が背景にあります。日本の場合、こうした活動が相対的に少ないほうですが、韓国はかなり活発であります。韓国の市民団体は、各種の団体が集まって、また大きい連合体を作り、国会議員一人ひとりに対するランク付けを行います。そこで、議員立法1位から一番下まで全部ランキング付けが行われます。また、その結果はマスコミなどによって大きく報じられます。すると、国会議員一人ひとりの地元の住民が全部見るので、地元の国会議員に対する評価が可能となります。したがって、国会議員は次の選挙を意識し、廃棄されても、とりあえずたくさんの法律を提出するということになってしまいます。

次のページに移ります。みなさん、世襲議員という言葉を知っていますね。親とか自分のお祖父さんの世代とか、上から政治をやっていて、その影響、そのお蔭で自分も政治に携わるといって世襲議員ですけど、それが望ましいと思う方、望ましくないと思っている方、手をあげて下さい。そして私とは関係ない、どっちとも関係ない方。でも本当に望ましいと思う方はあまりいないし、一般的には反対していますね。しかし、現実では、日本は全世界で世襲議員が一番多い国であります。なぜ、そうなっているか。みなさんのような普通の若者はあまり望ましくないと思っても、現実とは違うわけです。ちょっとピックアップしてみたいと思いますけど、一番上の5.6というのが韓国です。300人の中で5.6%くらいの17人が世襲議員です。日本は平均30%です。そしてアメリカは5%くらいです。日本の場合は、自民党が圧倒的に多いですね。民主党の場合は20%程度です。なぜ、日本の場合はこんなに世襲議員が多いのか。一般に政治学の本に

は三バンという言葉が出ていますが、それは地盤、看板、カバンを意味します。地盤は親から上の世代からもらった組織力です。そしてカバンというのは後援会のようなお金です。お金を集める能力。看板は親の名前とか自分の学歴とか。そのことを意味する。

韓国では、親が辞めて次に息子が出ようとすると、反感が強いです。他の候補者よりも。なぜなら、息子の能力に関して検証できていないのでないかという疑問があるからです。つまり、自分の能力というよりも親のお蔭で選挙に出るので、望ましくないというわけです。韓国の有権者は、一般に何か変えたい、変化を望む傾向を持っています。だから、親がやったことは子供の世代も同じではないかという認識にもつながっているわけです。新しい人物を望むという。したがって世襲議員が当選することはかなり難しくなっているのが韓国の特徴です。その一つの歴史的背景は、民主化運動が成功したこととも韓国の国民の中の意識にかなり影響していると思います。それに比べて日本の方は、新しい変化、新しい人物などについて多少消極的ではないかとみえます。どちらがいいか悪いかの問題ではない。文化の違い、国民の変化に対する反応が異なるだけです。このようなことから日韓の相違が生じるのでないかと思います。

そろそろ最後の段階に移りますけど、日本と韓国の政治の比較の中で、私は政党間、例えば、日本の場合は与党が自民党ですね。自民党と民主党というような野党との関係、自民党と維新の会との関係、自民党と生活の党、公明党、ほかの政党、政党間との関係がどのような文化を持っているかについて触れたいと思います。韓国の場合、セヌリ党という与党があります。そして新しい政治連合という名前の野党があります。あと正義党という政党があります。与野党関係についてみますと、まず、自民党の国会対策委員会に触れる必要があります。国会対策委員会がどんな仕事をやっているか、みなさん知っていますか。主に与野党関係、各政党間との関係で国会の日程の決定とか、法案をどのように妥協させるのかということをやっているのが国会対策委員会です。一方、韓国においても同じ名前ではないですが、同じ機能を担当しているところが院内代表です。韓国では、政党の一番代表を総裁と言います。つまり自民党の総裁を韓国では代表と言います。セヌリ党の代表。そして日本の場合は政務会長が人事やお金の問題などすべてを行っていますが、韓国の場合は事務総長が同様な仕事を行っています。そして政策を扱っているのが日本の政務調査委員会であり、韓国では政策委員会がそれに該当します。そこで、日本と韓国において一番違うところは、結論から言うと、日本の場合は水面下で、裏での妥協が多いということです。いい意味か悪い意味か分らないですけど、根回しといわれています。これに対して韓国では過去にそれがありませんでしたけど、今はなくなり、全部オープンになっています。表でやらないといけない。裏でやってそれが見つかったらものすごく大きな問題になります。裏で何もできない。表でやる。した

がって表に出ているから衝突が激しいですし、いい面、悪い面、両面性があります。

次に、一人の知り合いの話をしようと思います。私は日本の国会議員の知り合いがたくさんいます。その中で今、国会対策委員会の副会長を務めている人を取り上げたいと思います。彼は維新の会を担当していますが、主な仕事は何なのか、お酒を飲むことです。また食事を一緒にすることです。そして時々維新の会の国会議員から連絡があると、自分がいけなくてもその人たちが食べた食事やお酒代を代わりに払う、負担することもいっぱいあります。じゃあ、なぜ自民党はそうなっているのか。みなさん考えて下さい。

自民党は与党ですね。連立与党は公明党ですね。公明党は集団的自衛権などの政策に関して、連立与党でありながら、自民党に厳しい所も結構あります。でも維新の会はいかがですか、みなさん、維新の会には二つのグループが存在しています。一つはみなさんも知っている大阪市長である、橋下さんですね。橋下さんのような関西地域の維新の会は自民党系です。何とか自民党と一緒にやりたい気持ちをたくさん持っている人たちです。それに対して東京出身の維新の会の人たちは民主党と近いです。だから自民党と一緒にやってはいけないという考え方を持っている。そうすると、自民党の立場だったら、公明党との協力が厳しくしてしまったら、じゃあ我々には維新の会があるから、維新の会と手を組んだら、あなた達は何も利益がないですよ。したがって維新の会の人たちを引っ張る必要があります。特に集団的自衛権のようなことに関して。だから裏でやらないといけない。表としての討論をあまりやらない。やってもそれは表、実際は裏でたくさんやる場所。ある知り合いの国会議員は、毎日お酒ですよ。髪の毛もかなり抜けて、2年前に私と会った時より半分くらい減っています。これが一つの日本の政党内の関係、文化です。

一方、昔韓国の国会は動物国会ともいわれました。野生動物がお互い戦って、食に行くじゃないですか。そのように与野党関係が動物のような戦いをやりました。それで動物国会という名前を韓国のマスコミがつけたわけです。このような写真を、テレビで見たことありますよね。韓国で悪いことがあったら一番大きくやる所、全世界のトピックにもなりました。一つの法案に関して本会議場で戦っている場面です。そしてこれは常任委員会の会期中に与党側が、野党が入らないように自分たちだけで審議しようということで、全部鍵をかけたわけです。それを壊すためにハンマーで扉を全部壊すという。またこれは、体でぶつかり合う写真です。消火器ですか、火を消すために置いてある。そのホースがあるじゃないですか、それを全部ばらまく場面もあります。だから本当に恥ずかしい動物国会でした、韓国は。だから水面下でやらないですよ。表で全部やらないといけないから、自分なりの、各政党なりの信念とか哲学があるから、表で貫徹させようということになります。だから難しい、譲歩ができない、妥協ができない。だ

から体で全部やる。だから両面性があるわけです。

恥ずかしい話ですが、なぜ、このようなことが生じるかについて少し説明します。日本にはない制度です。国会議長、本会議で司会を務める権限がある人ですが、この人はものすごく大事です。行政府では大統領ですけど、議会の中では議長が大統領ですね。

次のスライドで示されたのは、韓国の国会での法律の審議と採択の手続きです。ほとんど日本と同じです。国会議員が法案を法律案として提出したら、国会議長に入るわけです。国会議長が本会議に報告して、それを常任委員会、すなわち各専門の委員会に割り振ります。それで各委員会では審議を行い、賛成か反対をつけます。賛成多数で可決したら、日本の場合は直接本会議に入りますが、韓国では日本にない法制司法委員会があります。これが大きな役割を果たしています。法制司法委員会は、提出された法案が法の体系上で問題がないか、また他の法律と衝突しないかなどを検討します。したがって、韓国では本会議で採択される前に二段階の法案審査を経るわけです。先に説明したように 1973 年、軍事独裁、朴正熙大統領の時代には、野党が反対することを恐れて、また野党ではなくて国会の与党が少数派になったら、大変なことです。そこで、これらのリスクを避けるため、当時、国会議長の権限で常任委員会と法制司法委員会の審査を省略し、本議会に提出することを可能にしました。いわゆる職権上程といわれるものです。そうすると、反対する野党または少数党の側からすれば、それを防がなければならぬ。だから体でぶつかり合って動物国会になったわけです。

この法律ができて職権上程が行われた回数ですが、私は 17 代の国会議員をやりました。私の 4 年前の国会では、議長が勝手にやった上程の回数が 6 回です。また、私の時は 29 回、そして私の次の国会では 97 回です。その際、常に衝突がものすごく発生するわけです。このような状況は、国会に対する国民の不信をもたらしており、特には世界のトピックになりました。そこで、国会改革を行うため、2012 年の 5 月 2 日に国会先進化法が成立されました。つまり、国会は先進国の国会になりましょうということで、とりわけ議長の職権上程に対して幾つかの条件をつけて、また本会議において無制限に討論を許容する内容が盛り込まれました。この法律によって野党は時間の決まりがないから、長く討論を続けても与党は手を出すことができない。その結果、動物国会が 1 回も生じなかったです。

しかしながら、問題は野党が反対したら、過半数を持っている政党の法案でも、それを通すことができない状況が生じております。植物人間のように、命はあるが、行動ができない、動くことができないのです。その結果、正反対に動物国会から植物国会になったといわれています。そこで、最近ではこの法律を変えようとする動きもみられております。



このように、韓国は激しいし、ダイナミックな社会です。すなわち、何か問題があったら、一気に変える、また問題があったら一気に変える。これに対して日本はそれほど変化がない社会ではないかと思います。日本は裏での妥協とか根回しが多いという政党間の関係ですけど、韓国はそれが全くない。表で何かやらなければならない、だから衝突がありました。それを防ぐために新しい法律を作りましたが、また法律の多数派でも過半数でも、法律の通過ができない状況になっていることが一つの特徴であります。

最後は選挙制度の比較をしようかと思いますが、日本と韓国は類似な選挙制度を有しているので、比較しにくいところがあります。そこで、地方参政権に関して少し説明したいと思います。みなさん、地方参政権、外国人の地方参政権ということに対して賛成する方。反対する方。やっぱり反対が多いですね。自分の国の国籍ではない人に関して、国政選挙でもない、大統領や国会議員の選挙でなくて、自分が住んでいるところの首長を選ぶ選挙と地方議員を選ぶ権利を持つ地方参政権は、現在ほとんどの先進国において導入されております。

韓国では、私が国会議員をやった時、2004年から2008年の間でしただけど、我々の国会で外国人永住者に関しては地方参政権を与えました。日本人で韓国に長く住んでいる人はたくさんいます。彼らはすでに地方参政権を持ち、各種の地方選挙で投票を行っています。自分が住みながらあそこですべて税金を払っています。またかかる義務も果た

しています。にもかかわらず、何も権利はない、これが果たして正しいことなのか。正しくないから多くの国家が、外国人の地方参政権を認めているわけです。しかし、日本ではまだ認めていない状況です。果たしてこれが日本の未来にもいいかどうかに関しては、日韓の比較の観点から見てもちょっとおかしいと思います。

そして外国人の人数ですが、仕事のことやいろんな面で、韓国に来ている外国人の比率は日本よりはるかに多い状況です。その人の中では永住権を持っている人たちは少ない方かも知れないですけど、それほど国全体の運営に対して影響がないから、住んでいる住民に関してその権利を与える必要があるのではないかと思います。

これで、私の今日の講演を終わらせていただきたいと思います。これから質問がある方は自由にお問い合わせしたいと思います。

司会 お話、ありがとうございます。ちなみに誤解しないでほしいですけど、講演中に学生さんの反応が鈍いということは、李さんだけじゃなくて実は私の授業でも同じです。時間は後 10 分ですが、何か質問がありましたら手をあげて質問をして下さい。

質問者 日本語でもいいですけど、外国語を覚える時は、何に注意して覚えましたか。

李 私の場合は日本語になりますが、みなさんからすると、どんな国の言葉であれ、外国語を勉強する際、一番気を付けることが何かですね。私は頭があまり良くない人間です。日本語の勉強について、今から考えると、特別な王道はないかと思います。ただ、やはり大事なのは、現地の人との付き合いだと思います。例えば、個人の経験ですが、2000 年 4 月 18 日に成田空港に降りました。それで 20 日から日本語学校に通いました。その時は全部、本の中で漢字とか文法とかでした。言葉は全然わからない状況でした。

でもあるきっかけがありました。何かといいますと、当時私の寮が東京の大塚駅というところにありましたが、大塚駅の周辺では市民団体がチラシを配る活動をしていました。私はそのチラシをもらい、下手な日本語ですけど、この団体の活動に関して色々質問をし、関連の会議がある時に自分呼んでくださいとお願いしました。そしてその団体が行う会議に定期的に参加しました。要するに、自分で学んだ、自分で習った言葉を全部あそこに行行って確認したり、私の口で練習を行ったわけです。だから王道はないですけど、一番大事なのは自分の口でやらないといけない、耳で慣れないといけないですから、直接その言葉を使う人との付き合い、それが一番大事です。それは外に出ることと関係があります。例えば、英語を勉強したかったら、直接英語と関係のあるイギリス

とかアメリカに行った方がいいし、他の国の言葉なら直接行くこと。それが一番いいと思います。お金がかかるかも知れないですけど。

質問者 日本では族議員といった派閥が政策過程のプロセスに影響を与えているということがありますが、韓国においても族議員のような派閥によって政策の決定のプロセスに影響を及ぼしていたのかということに関して教えていただければ幸いです。

李 日本の中で族議員という言葉がありますね。建設族とか、また金融族とか。専門委員会が国会の中にはいろんな委員会の専門分野があるから、ずっと同じ委員会に属して、その仕事関係ばかりやって、何かの意思決定に関わるとというのが族議員で、族議員というイメージは悪いことが日本の中にありますね。実際にそのケースも多いと思います。これに対して韓国では、日本に比べて族議員までではないですけど、一つの専門分野があって政策決定過程で大きな影響を及ぼすようなことはあります。ただし、一つの常任委員会に国会議員3期やってその期間中に同じ委員会を続けることはありません。一つの理由は、自分がやりたくても、例えば建設委員会の場合は韓国の国会議員、みんな入りたい委員会です。なぜなら、自分の選挙区、地元で道路の建設とか橋の建設、いろんな利益関係で財源を持ってくることができるからです。しかし、それを韓国政党の指導者の人たちは、その機会を一人に集中させることがほとんどありません。だから2回もしくは3回やったら、あとは他の委員会にいかないといけない。その意味で、日本のような否定的なイメージの族議員はいないと思います。

質問者 話の中でリーダーから見た日韓の政治比較ということがありますが、朴槿惠大統領のお父さんである朴正熙大統領は、日韓基本条約を批准したということで有名です。この日韓基本条約の中で請求権の放棄を結構明文化していると思います。しかし、朴槿惠大統領またはその一人前の李明博大統領になって、この請求権をさらに蒸し返すというか、再度日本に対していろいろな請求をししてくるという動きが結構活発化していると思います。これは現場から見てどのような理由がありますか。

李 それは理由ということではなくて、今の話の中で韓国が約束した請求権をすべて否定して、すべてに関して要求しているように今は解釈しているけど、そうではないですよ。例えば、日本と韓国の中でも複雑な問題があるし、日本の中で日本の国民が、日本の政府がやっていることに対して、韓国でも韓国の国民が韓国の政府がやっていることに関して、いろいろ複雑です。今、韓国が要求していることはその当時、1965年基本

条約が締結される前までに、また締結された時、その中にも全然入ってなかった問題に関して取り上げることです。

何かというと、みなさん、慰安婦問題、これが事実かどうかによって、日本の中でマスコミがいろいろ騒いでいますが、韓国ではそれを完全な事実とします。中国もそうだし台湾もそうです。みなさん、ロシアのサハリンを知っていますね。韓国は 36 年間日本の植民地でした。その時期では強制的に連行されて日本に仕事しに来た人がいっぱいいます。そしてお金を稼ぐために行った人もいます。その人たちの中で強制的に選ばれて、サハリンの方に移住させられた韓国人が多くいます。彼らはロシアがソ連の時代に、無理やり他のところに移住させられました。自分の意思に反して。またもう一つは広島とか長崎に原爆があったじゃないですか。被爆した朝鮮人、韓国人に対して、その三つに関しては当時の基本条約の交渉、取り決めの中に何も話し合いがなかったわけです。だから韓国の政府と市民が話しているのはその三つに関するものです。

これに対して日本の政府側はその三つまで含めて全て清算したと言っている。でも交渉の中には、65 年前までの交渉の中には何もなかったのです。これに関してはやはり被害者もしくは弱い人間の立場から考える必要があるのではないかと思います。

みなさん、私が今日安倍総理と朴槿恵大統領のリーダーの比較の中で私が説明しなかったところがあります。国家主義です。安倍総理と朴槿恵大統領は国家主義的な考え方を持っている人です。でも今の時代は国家よりは個人が大事な時代です。つまり、自由、平和、平等などの普遍的な人間の価値が最も大事であります。したがって、個人の被害に関して両政府の話し合いが過去の交渉でなかったから、今から話し合ひましよう、それが時代の流れです。しかし、依然として日本の政府は全部解決しましたと主張しており、日本のマスコミの方もその詳細についてそれほど紹介していません。

司会 時間になりましたので、今日の講演会を終えたいと思います。改めて拍手をお願いします。講演の中でも話があったように、韓国の大統領と日本の総理大臣の性質、思考も似たようなところはあります。私からすれば、それは最近見ると、今日の講演の中で少し触れたように、従来の日本と韓国において考えられてきた固定観念ですね。例えば日本の場合は議院内閣制だから、要するにあまり決められない政治。それに対して最近の安倍内閣の場合はかなり決めすぎている政治をやっている、かなり離れている政治をやっているのが大きいと思います。それに対して韓国の場合は、強いリーダーシップということで大統領制の下で各大統領がそういう権限を握ってきました。しかし、朴大統領の場合はいろんな問題に対してそれほどリーダーシップを発揮できていないです。その結果、二人共に 35% 前後の支持率、支持率の低下を争っている状況でないかと思

現場からみた日韓政治比較（李）

われます。これは一見すると、議院内閣制か大統領制かという制度の違いよりも他の原因があるのではないかともいえます。これはこれから日韓の政治比較をする際に、注意深く見るべきではないかと思いました。今日はありがとうございました。行政学の授業を受けている人は出席票を出してからお帰りになって下さい。

（イ・ソングォン 駐神戸大韓民国総領事）